

I 大田区のプロフィールを紹介します

大田区は「羽田空港と田園調布があるまち」といえばイメージがわくでしょうか。東京都の東南部にあり、東は東京湾に面し、西と南は多摩川を挟んで神奈川県川崎市に隣接しています。西北部の丘陵地帯に田園調布・雪谷・久が原などの比較的緑豊かな住宅地があり、低地部には住宅や工場、商店が密集する商業・工業地帯が形成され、「東京の縮図」ともいえるまちなみとなっています。



田園調布旧駅舎



大森ふるさとの浜辺公園

区は、平成20年10月に四半世紀ぶりに大田区基本構想※1を制定し、20年後の区の将来像を「地域力が区民の暮らしを支え、未来へ躍動する国際都市 おおた」と掲げました。平成21年3月には基本計画である「おおた未来プラン10年」（以下「未来プラン」という。）を策定、また平成26年3月には「未来プラン」の後期5年間を実施するにあたり、社会経済状況の変化に対応させた「おおた未来プラン10年（後期）」を策定し、着実に計画を推進しています。

子どもや高齢者の見守り、子育て家庭の孤立化防止など、多様化する地域の課題は、行政だけの対応では難しく、地域が行政と連携しながら、地域の実情に即して課題に対応することで、より効果があがります。区は、まちづくりを進める基本的な方向として、「地域力を活かしたまちづくり」を推進しています。

18の特別出張所を地域力の拠点とし、自治会・町会、事業者やNPOなどの区民活動団体と連携・協働しながら、防犯・防災、子育て、高齢者の見守りなどの活動を行っています。地域特性を活かした施策を展開するため、区は、平成21年度から「地域力応援基金助成事業」を創設し、福祉・環境・まちづくりなどの分野で、公共性が高く社会貢献につながる地域活動に助成し、地域力の支援を進めています。少子高齢化が一段と進む中、高齢者や子どもたちの生活の場である地域において、ますます区民活動団体の果たすべき役割は大きなものとなります。

大田区は産業のまちでもあります。区内には平成27年1月時点で145の商店街があり、区民の生活を支えています。多様化する社会環境の中で、地域コミュニティの拠点として、商店街のにぎわいや地域の人々をつなぐ重要性は高まっています。地域の人たちが安心して買い物ができるふれあいの場など、商店街が果たす役割は大きくなっています。また、区の産業の最大の特徴は「ものづくり」産業の集積です。機械・金属加工を中心とした多種多様な技術を持つ企業の集積、経験豊かな職人や洞察力のある技術者などの人的資源の蓄積は、我が国の中でもトップレベルであり、高精度で複雑な加工ニーズへの対応や短納期化に対応できる迅速性を実現し、日本のものづくりの高付加価値を支えています。区は、今後も工業集積の維持・発展を図るため、国際化した羽田空港の立地を活かし、新市場の開拓支援や新成長産業の創出に取り組むとともに、大田区のものづくりを国内だけでなく広く海外に向けて発信していきます。

大田区のお勧めスポットのひとつは銭湯です。23区で最も銭湯が多く、天然温泉の黒湯が湧いている銭湯もあります。黒湯は、その名のとおりコーヒーのような色をしており、すべすべした肌触りが特徴です。また、大正時代の末期から昭和の初期にかけ、尾崎士郎、川端康成など数多くの作家が住んでいた馬込文士村や、多摩川台古墳群、池上本門寺などの史跡・文化財、そして多摩川や臨海部などの水に恵まれた景観、さらに昭和の活気を感じさせる商店街など、バラエティーに富んだ多くの見どころがあります。



黒湯

平成25年は、日本を訪れる外国人の数が初めて年間で一千万人を超えました。区でも、平成25年度に初めて観光庁の「ビジットジャパン」事業に参画し、海外からの誘客（インバウンド）に努めているところです。平成23年度から実施している「訪日外国人旅行者受入環境整備」では、25年3月に、外国人に日本の生活文化の一つである銭湯を体験していただくため、大田浴場連合会と連携して「外国人向け銭湯の入り方」に関する動画やポスターを公開しました。大田区発のこの取り組みは注目を集め、数多くのメディアで紹介されるとともに、東京都中の銭湯にも広まりつつあります。

平成25年5月には、大田区の情報を発信する観光情報コーナーを京急線品川駅下り線ホームに開設しました。観光情報コーナーは産業プラザ、羽田空港国際線ターミナルに続き3か所となり、



京急線品川駅 大田区観光情報コーナー

ここから大田区の魅力を発信しています。さらに、平成23年度から実施している「まちかど観光案内所」は、26年12月現在で140か所を超えています。また、大田のモノづくりをはじめとした産業の魅力を多くの方に周知し、来訪の機会とするために産業観光モニターツアーを実施するとともに、工場見学者の受入に向けた事業者の取り組みを支援しています。今後、旅行商品としてツアーが催行されることを目指していきます。

平成26年10月に「第2回蒲田映画祭」、11月に「第4回おおたオープンファクトリー」が実施されるなど、地域での観光まちづくりの取り組みも進んでいます。

羽田空港は平成22年10月の国際化以降、段階的に国際線の発着枠が拡大され、ますますヒト・モノ・情報の往来が活発化することが期待されています。隣接する空港跡地について区は、特区制度を活用した産業交流施設の整備を進め、ものづくりにおける国内外ネットワークの拠点形成を目指しています。あわせて、景観に優れ、水辺に囲まれた立地を活かし、区民が安らぎ、交流を育む多目的広場などの整備を予定しており、世界に開かれた空の玄関口の隣接地にふさわしいまちづくりを進めていきます。



産業交流施設のイメージ図

平成24年6月に、大田区総合体育館がオープンし、同時に「スポーツ健康都市宣言」を行いました。スポーツを通じた健康、地域のつながり、国を超えた交流をめざし、様々な競技・イベントが開催されています。

○大田区命名の由来

大田区の前身である大森・蒲田の両区は、ともに昭和7年10月に、当時の東京市へ隣接する郡町村が編入された際に設置されました。馬込、東調布、池上、入新井、大森の5つの町が「大森区」に、矢口、蒲田、六郷、羽田の4つの町が「蒲田区」になりました。

昭和22年（1947年）3月15日に、「大森区」と「蒲田区」が一緒になって誕生したのが大田区です。その際、一文字ずつを取って命名されました。

○大田区の歴史と沿革

海と川に臨み、昔から人が住みやすく、交通の要路でもあったため、区内には、多摩川台古墳群、池上本門寺五重塔など多くの史跡が点在しています。水止舞や禰宜（ねぎ）の舞などの伝統芸能も数多く残されています。

江戸期は農村、漁村で、特に海岸の大森・糀谷・羽田地区では海苔の養殖が盛んに行われました（昭和38年まで存続）。東海道の街道筋にあたっていたため、人馬の往来でにぎわいました。大正期以降、中小工場が進出し、低地部は住宅や工場が密集する商業・工業地域を形成し、京浜工業地帯の一部となっています。台地部は、関東大震災後、住宅化が進み、田園調布、雪谷、久が原などは比較的緑の多い住宅地です。臨海部は埋め立て地からなっており、空港をはじめトラックターミナルやコンテナ碼頭、市場など物流施設のほか、工場団地、野鳥公園など都市機能施設が整備されています。

○大田区の面積と地勢

区の面積は60.66平方キロメートルで、23区で第1位です。

西北部の丘陵地帯と東南部の低地に2分され、丘陵地帯はいわゆる武蔵野台地の東南端にあたります。低地部は、海岸や多摩川の自然隆起と堆積によってできた沖積地と、それに続く埋め立て地からなっています。海拔は、田園調布付近が最高で42.5メートル、南東に向かって次第に低くなり、低地部の高いところで約5メートル、海岸線や埋め立て地では約1メートルです。



【用語解説】基本構想※1

急速な少子化や高齢社会の進行のほか羽田空港の国際化の動きなど、区を取り巻く環境は多岐にわたり大きく変化しました。区は、めざすべき姿を提示するため四半世紀ぶりに新たな基本構想制定に取組み、平成20年10月14日大田区議会で議決されました。基本構想は、20年後の大田区のめざすべき将来像を「地域力が区民の暮らしを支え、未来へ躍動する国際都市 おおた」と掲げました。今後の大田区のまちづくりの方向性を明らかにした、区の最も基本となる考え方を示すものであり、区民と区政の共通の目標として、今後の区政運営の指針となるものです。

○区の紋章

区の紋章は“大”と“田”の2字を図案化、昭和27年に制定されました。デザインは、広く区民から公募し、1,429点の作品の中から選ばれたものです。



○平和のシンボルマーク

区は、恒久の平和を願って、昭和59年8月15日に平和都市宣言を行いました。戦争の悲惨さを再認識し、平和への思いを新たにするためのシンボルマークを昭和63年に制定しました。デザインは、区民からの公募により選ばれました。



○区の木「クスノキ」

昭和51年に区の木として制定されました。常緑の葉は陽光に美しく映え、成長が早く、そのたくましい樹形は風格ある高木となります。まさに発展する大田区を象徴する木といえます。



○区の花「ウメ」

クスノキと同様に昭和51年に区の花として制定されました。花は清楚にして気品に満ち、早春、寒さに負けず咲くその姿は、古くから区の土地になじみ、歴史的な由緒も深い大田区には特にふさわしいものです。



○区の鳥「ウグイス」

梅の咲く早春を告げる鳥として昔から人々に親しまれており、独特の澄んださえずりは自然の尊さを感じさせます。区の自然保護のシンボルとして平成2年に制定されました。



○大田区歌

昭和29年に歌詞を公募し、我が国を代表する作詞家、作曲家である高橋掬太郎、山田耕筰らの審査により、当時東雪谷在住だった26歳の女性の案が採用されました。それをもとに高橋掬太郎が歌詞を修正し、山田耕筰により作曲されました。

○世帯と人口

	世帯数	人口総数	日本人人口			外国人人口
			男性	女性	計	
平成26年4月1日現在	367,586	704,248	343,545	342,019	685,564	18,684
平成21年4月1日現在	344,202	692,466	339,152	334,773	673,925	18,541
平成16年4月1日現在	318,834	667,321	327,804	323,309	651,113	16,208

区の組織図（平成26年4月1日）





